



新潟教区報 第134号
 2023 (令和5) 年3月 日発行

編集／浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会
 〒940-2402
 新潟県長岡市与板町与板乙 4356 本願寺新潟別院内
 TEL : 0258-72-2120
 FAX : 0258-72-2536

第二十五回 新潟教区 平和を誓う念仏者のつどい



日時 二〇二二(令和四)年十二月九日(金)十三時三十分～十六時十分
 会場 本願寺新潟別院 本堂
 講演 「沖縄の基地問題」～加害者は誰なのか～
 講師 新潟県立大学 准教授 福本 圭介さん

「第二十五回新潟教区平和を誓う念仏者のつどい」が右記の通り開催されました。本堂には「浄土真宗と戦争」と「原爆と人間」をテーマにしたパネル展示が行われ、多くの方がパネルを目にし、平和について考える機会となりました。(写真右下)

始めに水岡賢士教務所長を導師に社会実践部会員から出勤いただき、正信念仏偈作法第二種による新潟教区全戦没者追悼法要が営まれました。(写真右上)

法要に続いて、講演が行われ、始めに沖縄の米軍基地に配備されるオスプレイの着陸帯建設に反対する、東村・高江の住民たちの活動や普天間基地にオスプレイを配備することに対する沖縄県民の県民集会や反対運動、その運動に対して国が行なった裁判や運動の鎮圧を撮ったドキュメンタリーを視聴しました。

その後、パワーポイントを使って沖縄基地の現状や沖縄県民以外の日本人の沖縄基地への反応等を数字やグラフを用いたデータを参考に沖縄の基地問題の加害者は誰なのかを福本さんから講義いただきました。マスメディアで沖縄の基地問題を見ると、国と沖縄の構図で取り上げられることが多いですが、本土に住む私たちは無関係なのか、私たちに出来ることはないのか。沖縄の基地問題に対して、考えさせられる講演となりました。(写真左)

閉会式の前には非戦・平和のアピール文を読み上げ、参加者の賛同をいただきました。

昨今、ロシアによるウクライナ侵攻や台湾問題等、世界的に戦争の話が無くならない世情ではありますが、一人一人が自分たちにできることを考え行動して、一日も早く平和な世界になることを願うばかりです。

法話 命の日

本願寺派布教使 新潟組金照寺衆徒 洪野明子

命日をご縁にお墓参りやご法事をされる方が多いと思います。ご往生された方を思い、その人のためにお参りされるのは大変素晴らしい事です。しかし仏さまに、この私が願われている事に気づかされる日でもあるのです。私たちは、大切だった方を通して手を合わせ、仏さまのお話を聞くご縁をいただきます。そこに私たちの願われた命のあり方が意味づけられていきます。

命という字の語源は「命令」するという言葉から分かるように「上から下の者へ言いつける」という意味があります。しかしここでは、語源からではなく、漢字の味わいを述べさせていただきます。この「命」という字は「いのち」と読みます。バラバラに読むと「人、一、叩」という字に分けられます。「人を一つずつ叩いている」のです。この命という字から想像すると、皆さんはどのような時に命を感じるのでしょうか。

近頃ではネット上で暴言や悪口を書き込み、他人を叩いて憂さばらしをして命を感じている人達があります。また、世界では戦争で人を攻撃して命を感じている人もいます。世界に限らず身近にもいるかもしれません。「人を一発叩いて命を感じる」この命の感じ方は大間違いです。

命は自分の中から、人を一つずつ叩いてくれている心臓が無ければ始まりません。「人を一つずつ叩く」この音の連続こそが命です。

私が新しい命を授かってから二ヶ月ほど経った時、産婦人科でおよそ六ミリの小さな赤ちゃんの心臓が脈打つのを見せてもらいました。それは人間の心臓の鼓動とは思えないほど速く脈打っていました。その一打一打に、一生懸命生きていく小さな命を感じ、涙が出るほど嬉しかったことを覚えています。自分の中にあるこの小さな命を大切に

守つていこうと決めた日でもありました。

正信偈の和訳「しんじんのうた」の礼讃文に「われ今幸いにまことのみ法を聞いて 限りなきいのちをたまわり 如来の大悲にいだかれて 安らかに日々をおくる」という御文があります。

人は生まれる前から一つずつ叩かれていく心臓がつくられます。つまりは自分が知らずしらずに「受け取ってきたもの」にこの心臓の一打一打は気づかせてくれているのです。この命は、両親をはじめ、数限りないご先祖様から受け継がれてきたものです。この私も阿弥陀様の大悲に包まれて、いつかはお浄土へと参らせていただき、仏に成る大切な命でもあります。「南無阿弥陀仏、阿弥陀様ありがとうございます」と手が合わります。

忙しい毎日のなかで「命日」を通して阿弥陀様とご先祖様、自分の命について心静かに見つめられる「命の日」になればいいと思います。



地蔵堂組主管 仏教婦人会大会

日時 二〇二二(令和四)年九月四日(日) 十三時三十分～十六時三十分

会場 本願寺新潟別院 本堂

テーマ 「貧困問題の克服に向けて」～私たちにできること～

講師 真宗大谷派僧侶(重蓮寺坊守) 関崎 智弥さん

「第三十九回新潟教区仏教婦人会大会」を終えて

新潟教区仏教婦人会連盟副会長

地蔵堂組浄専寺仏婦会員

中島 道子

「第三十九回新潟教区仏教婦人会大会」を、地蔵堂組の主管により、前回大会より四年ぶりに開催いたしました。

テーマに基づく講演会では、講師の関崎智弥さんよりご自身の日頃の具体的な活動や経験について、大変熱意のこもった講演をいただき、特に、講演のまとめとしてお話された「貧困問題を克服していくために必要なことは、一人一人がまず自分自身を大切にすることである。自分自身を大切にしなければ、周りの誰かが困っていることにも気がつかない。自分自身を大切にすることで、自分の気持ちに余裕ができれば、周りの状況にも気づき、関わっていくことができるようになると思う。」との内容には、新たに気づかされた驚きと共に、深く感銘を受けたことであります。



勤行は女性僧侶のみの出勤で営まれた

今大会は、コロナ禍の状況を考慮し、感染拡大防止の観点から、開催時間の短縮や会場への参加人数の制限、更にオンライン会議システムを利用しての開催となりましたが、各組長様をはじめ教区内ご寺院、教務所職員の皆様、スタッフの皆様の協力により、多数のご参加をたまりましたこと、心より感謝申し上げます。

今大会が、今後の仏婦活動において「貧困問題」について更なる学びを深め、その克服に向けて取り組んでいくための機縁となれば、幸いに存じます。

元上組主管 教区門徒総代研修会

日時 二〇二二(令和四)年九月十四日(水) 十三時三十分～十六時三十分

会場 本願寺新潟別院 本堂

テーマ 「親鸞聖人ご誕生八五〇年を迎えて」

講師 与板組 光源寺住職 清水 正朋さん

教区門徒総代研修会を終えて

元上組門徒総代会会長 池田 昭治

研修会が終わって肩の荷が下りました。十数年ぶりの主管組となり、初めての経験であります。今回の研修会は主管組と教区総代会会長職、二つの重職でもあり失敗は許されたいプレッシャー等がありました。

年初三月に実行委員会を立ち上げ、組内総代役員と寺院住職方への協力を依頼しました。また、ご相談等は組長の大岩さんとコミュニケーションを図り企画立案をさせていただきました。まず、研修の題材・ご講師の選定・研修開催日・研修会場(宿泊先、研修会議室、荘厳、駐車場、会費の負担額等)様々な面で検討いたしました。条件に合う希望の会場が見当たらず、且つコロナ感染症の時世でもあり宿泊先からは大勢の人数での宿泊は断られた為、新潟別院を会場として日帰り研修会を進めることと致しました。

組長さんへは研修題材とご講師のご依頼、プログラムの作成、事務局との連絡等をご依頼致し、私は各スタッフの役割分担、準備品の手配と持込み等を分担し、無事に研修会を終える事が出来ました。

各組の門徒総代の方々との懇親会開催は、コロナ感染症の時世で開催は不可であり、ご期待されておられた方々には残念かと存じます。次年度主管組の三条組様へ引き継ぎましたので来年度にご期待とお待ちを申し上げます。

最後にご報告でございますが、当日皆様方からご協力いただきました「子どもたちの笑顔のために募金」の三万三千元は九月十五日に重点プロジェクト推進室へご送金させていただきました。誠に協力感謝申し上げます。



↑研修会の様子

元上組主管 仏教壮年会連盟研修大会

日 時 二〇二二(令和四)年十一月十三日(日)十三時三十分～十六時三十分
 会 場 本願寺新潟別院 本堂
 大会テーマ 「高齢化、コロナ禍の時代における仏壮活動を検証し再構築しよう」
 基調講演 巻組 萬栄寺 前住職 丸山 文雄さん

新潟教区仏教壮年会連盟研修大会を振り返り

元上組仏教壮年会連盟 会長 岸 和義

私のパソコンに、九年前に元上組が主管で開催した教区仏壮連盟研修大会の資料が残っています。その際の趣向は「お念仏申しましょう」をテーマに三名のご門徒が意見交換するというものでした。このパネルディスカッションを進めるにあたり、例えば善導大師の「本願取意の文」を読み解くなど泥縄ではありましたが登壇者、指導僧侶とで研修の成果を追い求めたり、余興として地域芸能を披露するための調整、地元の名産の調達など、それこそ元上組の仏壮を挙げて準備し大会を盛り上げたものです。つまり、主管組発信型の研修大会でした。そして今回の仏壮研修大会ですが、今回は「新潟教区の仏壮連盟とはどんなものなのか」を追い求めた研修でした。

新潟教区の仏壮組織のつながりは、研修大会への参加状況のみで推し量るべきでないと思いますが、欠席組が約半数あり、研修当日の参加者四十余名のうち過半が元上組の門徒であったこと等から教区の仏壮組織のつながりの希薄化並びに個々の仏壮組織の脆弱化が進んでいることが伺えます。

こうした状況に陥っていることの要因が今回の研修の中の「話合い」で語られ、まとめとなったことは一つの成果だと思っております。詳細は全寺院に配布頂いている報告書に記載しましたが、様々なこと希薄化は、決して仏壮のことだけではなく、大きな時代変化の中での出来事です。しかし、それ故に諦めてしまうのではなく、現在の財産(組織、人材、歴史や事業、そして地域)を点検し、小さくとも本音でお念仏に触れようとする仲間づくりを進めることができたらと思っております。

新潟教区の仏壮としての連携を生み出せる事業がスタートできたらいいな、というつぶやきをまとめた言葉といたします。



「寺中寺院」研修会

日 時 二〇二二(令和四)年十二月七日(水)十三時三十分～十六時
 会 場 本願寺新潟別院 本堂
 講師 高岡教区 伏木組 要願寺 林 史樹さん

「寺中寺院」研修会に参加して

地藏堂組 西敬寺 住職 高橋 裕子

新潟教区で初めての「寺中寺院」研修会に参加しました。理由は、自坊も以前は本坊という立場であり、他人事とは言えず、寺中問題で苦しんでおられる方に何ができるかを考えた時、まずは差別の現実を知ることが大切なのではないかと思っただけからです。

実際に研修を受けてみて、その差別の実際は私が前任職から聞かされていた色々な寺院の話と同様の話もあれば、それをはるかに超える命にかかわるといっても過言ではない程の深刻な話もありました。特にご講師の方が話された、資料には載っていない実際にあった差別の話は本当に驚き、考えさせられる内容でした。そしてこの寺中問題は、寺院ごとに状況が違おうという事がこの問題をさらに難しくしていると知りました。

今までの自分を省みると、良い悪いの一言では片づけられない様々なことがあるように感じます。研修会の中で私が心に残ったのは「該当しない寺院＝傍観者」という言葉です。自坊が本坊という立場ではなくなったことと、自坊以外の寺院の問題に首を突っ込んではいけない暗黙のルールがあるように思っていたことが、結果的に傍観者になってしまっていたんだと気づかされました。私は出来るだけ差別をしない人になりたいと思っていた結果、傍観者となってしまっていたという事実は反省すべき点でした。



閉会式で同朋部会長が「この研修会は始まりに過ぎない」と話されていたと記憶しています。今の私に何が出来るかはまだわかりませんが、さらに学びを深め、苦しんでおられる方に寄り添えるようになりたいと思います。

親鸞聖人御誕生 八五〇年 立教開宗 八〇〇年 慶讃法要

来たる三月二十九日から、本願寺にて親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要（以下慶讃法要）が御修行になります。

宗祖親鸞聖人は承安三年四月一日（新暦一七三三年五月二十一日）に京都の日野の里で誕生されました。元仁元年（一二二四年）ごろには、浄土真宗の根本聖典である『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）を執筆されました。この教行信証を執筆されたことをもって立教開宗とし、草稿本が完成した元仁元年（一二二四年）四月十五日を立教開宗記念日としています。

親鸞聖人が御誕生されてから八五〇年、立教開宗から八〇〇年を機縁にぜひ多くの方に参拝をしていただけたら幸いです。

法要期日は第一期が三月二十九日から四月三日、第二期が四月十日から四月十五日、第三期が四月二十四日から四月二十九日、第四期が五月六日から五月十一日、第五期が五月十六日から五月二十一日の五期三十日になります。

午前の法要は九時三十五分から日程説明・記念布教・挨拶があり、その後十時から法要がお勤まりになります。午後の法要は十三時三十五分から日程説明・記念布教・挨拶があり、十四時から法要がお勤まりになります。また、午前午後共に法要後に帰敬式が執り行われます。なお、一部法要日は平常時の帰敬式（晨朝後と十三時三十分より）に執行されますのでご確認の上、受式してください。



浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺(西本願寺)

親鸞聖人御誕生 850年 慶讃法要
立教開宗 800年

「ご縁を慶び、お念仏とともに」

西本願寺

Joint Celebration
820th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching
Life of Nenbutsu enables us to appreciate every encounter.

法要期日	
第1期	3月29日(水)～4月3日(日) 6日間
第2期	4月10日(日)～4月15日(土) 6日間
第3期	4月24日(日)～4月29日(土) 6日間
第4期	5月6日(土)～5月11日(木) 6日間
第5期	5月16日(火)～5月21日(日) 6日間

TEL (075) 371-5181

慶讃法要は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為、参拝人数を制限しての御修行となりますのでご注意ください。

新潟教区内の各組の団体参拝の様子は次号以降の教区報にて掲載を予定しております。

浄土真宗の作法（合掌・礼拝）

新潟別院や各組、お寺での法要や行事、自宅での月忌参りや法事等、仏事に触れる機会は多少なりともあると思います。

浄土真宗の作法として正しい作法を解説していきます。正しい作法を身に着けていただけると幸いです。

合掌

法要や行事の際に一番する機会が多い作法である合掌と礼拝、こちらの作法について解説していきます。

まず、合掌は両方の手のひらを合わせて、親指と人差し指の間に念珠を掛けます。この時指は揃えて伸ばし、親指は軽く念珠を押さえます。

両肘は張らずに合せている両手を胸の中心で合わせます。この時の合わせた手の位置は胸に親指の付け根が当たるか当たらないかの位置においてください。指先と上体との角度は約四十五度に保って念仏を称えま

す。

ポイントとしては、指と手の角度です。合掌時の指はしっかりとそろえて横から見たときに指と指の間に隙間がないようにすると綺麗な作法になります。手の角度の約四十五度の目安としては、礼拝時に身体を傾けた際に手と床が平行になる角度が約四十五度になります。手の角度が上を向きすぎたり、下を向きすぎたりしないよう気を付けて作法してください。

礼拝

礼拝するときは、合掌をしたまま静かに上体を約四十五度前方に傾けてから、ゆっくり元の姿勢に戻します。元の姿勢に戻ってから合掌を解きます。

ポイントとしては、元の姿勢に戻る際に、動きの中で合掌を解くことはせずに、上体が元の姿勢に戻ってからゆっくり合掌を解くとより綺麗な作法になりますので心がけていただきたいと思います。



寺院巡り

新潟組 照覚寺

しょうかくじ

住所 新潟県佐渡市小木町九六二
電話 〇二五九一八六一二七一二

照覚寺縁起では『承久の乱』により佐渡島へ配流となられた順徳上皇が親鸞聖人に帰依し、勅願所として真野竹田に草庵を開かれ【殊勝誓願興行寺】の寺号を賜ったことが起源とされています。四十六歳で順徳上皇崩御(一二四二年)の後、二十三歳の第三王子彦成親王(善空坊釋信念)が父の菩提を弔うため、親鸞聖人の勧めで秘かに佐渡島に下向され殊勝誓願興行寺の開基上人となりました。のち、深山幽寂の西三川字笹川に寺基移転しましたが、今現在は、法名院塚と呼ばれ、宮内庁陵墓参考地として管轄されています。世界遺産登録候補地【佐渡島の金山】の一地区内になります。

一三五四年、羽茂須川菅生に移し菅生山正覚寺となりましたが、一五八九年、戦禍により焼討ちにあい、小木町人沖に移転の後、転々と安住の地を求め一八〇七年に現在地に移り『近海山照覚寺』として今日に及んでいます。山号の近海山は、笹川砂金山にて金海山だったものが、人沖という沿岸で近海山と呼ぶに至ったのではないかと推測されます。



↑ 照覚寺本堂

現在地では、町並みと内の澗(城山を中心に西側の集落)を見下ろし、両脇に皐月の植込みのある表参道石段八十二段を上った所にあります。毎日のようにご門徒さんの墓参り、ご近所さんの散歩コースになっており、皐月の剪定には力が入ります。

教務所・別院からのお知らせ(会場記載がないものは新潟別院で行います)
二〇二三(令和五)年度 行事予定

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止や延期となる場合がございます。
ご確認のうえ、お申込み・ご参加ください。

▽新潟別院報恩講
日 時 六月二十五日〜二十七日

▽新潟別院謝恩講
日 時 十月二十三日〜二十四日

▽慶讃法要団体参拝

▽各組団体参拝

与板・長岡組	三月三十日	午前の部
元上・三条組	四月四日	午後の部
地藏堂・新潟・巻組	五月十七日	午前の部

▽教化団体参拝

少年連盟	三月二十九日	午後の座
門徒推進員	四月十日	午前の座
仏教青年連盟	四月十五日	午後の座※合同参拝
仏教青年連盟	四月十五日	午後の座※合同参拝
仏教婦人会連盟	五月十日	午前・午後の座
保育連盟	七月二十九日・三十日	【法要期日外】

お悔み 生前のご功労を偲び、謹んでお悔やみ申しあげます。

- ▼一月四日 長岡組 善行寺住職 渋谷 正教さん (八十九歳)
- ▼一月二十日 長岡組 浄林寺坊守 内藤 慶さん (九十八歳)
- ▼一月二十二日 与板組 長善寺住職 佐藤 尚希さん (五十八歳)
- ▼二月十一日 長岡組 光雲寺住職 春日 彰教さん (九十三歳)
- ▼十二月十五日 長岡組 正覚寺 若槻 頌さん (釋頌教)

得度

広報部会では教区報とホームページについての「意見・ご感想を募集しています。ご意見・ご感想等ある方は新潟教区教務所へ電話やメール等にてご連絡ください。よろしく願います。

